

砂澤ビッキ 没後30年



北海道を代表する彫刻家 砂澤ビッキ(1931-1989)が他界し、今年で30年になります。

最晩年に自らの制作を「樹氣」と表したように、素材となる木に宿る声を聞き、内在する力を感じながら、それを増幅するような造形を数多く生み出しました。彼が残した作品群は、環境問題など人間と自然の関係に対する意識の高まりをみせる現在において、ますます多くの人の心に強く響くようになってきているのではないのでしょうか。

没後30年を機に、改めて砂澤ビッキの仕事を振り返るさまざまな事業が札幌市内で行われます。多様な側面からこの彫刻家の魅力に触れることができる、まさに「Bikky Year」です。

札幌芸術の森美術館

札幌美術展 砂澤ビッキ—風—

2019年
4月27日(土)～6月30日(日) 会期中無休
開館時間:9:45～17:00(6月は17:30まで。入館は閉館の30分前まで)
観覧料:一般1000円、高大生700円、小中生400円
主催:札幌芸術の森美術館(札幌市芸術文化財団)、北海道新聞社



《四つの風》1986年
札幌芸術の森野外美術館
撮影:前澤良彰(2018年)

「風」シリーズを中心とした彫刻作品とともに、これまでの《四つの風》の記録を写真や映像で展示し、自然が芸術に与える力を明らかにします。また、「絵描きとしてのビッキ」「カナダでの制作」「ビッキの遺したもの、そして没後の30年」など多彩なセクションを設け、当館がこれまで行ってきた研究・調査の成果を紹介し、新たな視点を加えながらビッキの功績を回顧します。

- ギャラリートーク「ビッキとの25年」 講師:阿部典英(美術家)
5月18日(土)14:00～15:00 / 会場:札幌芸術の森美術館展示室内 / 無料(要観覧券)
- ギャラリートーク「酒井忠康～ビッキ没後30年、風雪の髪あとを探る」
講師:酒井忠康(世田谷美術館館長)
6月9日(日)14:00～15:00 / 会場:札幌芸術の森美術館展示室内 / 無料(要観覧券)
- 学芸員によるギャラリートーク
5月3日(金・祝)、5月25日(土) 各回14:00～14:40 / 無料(要観覧券)

札幌市南区芸術の森2丁目75 電話011-591-0090 <https://artpark.or.jp>

本郷新記念札幌彫刻美術館

砂澤ビッキ—樹—

2019年
4月27日(土)～6月30日(日)
月曜休館(4/29、4/30～5/6開館、5/7休館)
開館時間:10:00～17:00
(入館は閉館の30分前まで)



《樹鱈》1977年
中原権二郎記念旭川市彫刻美術館蔵

観覧料:一般500円、65歳以上400円、
高大生300円、中学生以下無料
主催:本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)

「ビッキ文様」と呼ばれる独自の装飾をもつ作品群を主に紹介。1960年代後半から70年代に制作された〈木面〉、虫や魚をモチーフにした作品を中心に、《風》や《樹華》以前の「もうひとつのビッキ」を紹介します。

- 学芸員によるギャラリートーク
5月11日(土)、6月1日(土) 各回11:00～11:40 / 無料(要観覧券)

札幌市中央区宮の森4条12丁目 電話011-642-5709
<http://www.hongoshin-smos.jp>

砂澤ビッキ展を同時開催する札幌芸術の森美術館と本郷新記念札幌彫刻美術館では、それぞれ他方の展覧会観覧券の半券を提示すると団体料金でご覧いただける相互割引を行います。

札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

能藤玲子 「風に聴く—みたびまみえる—」

創作・演出:能藤玲子 | 舞台美術:砂澤ビッキ
出演:能藤玲子創作舞踊団

2019年
10月18日(金)夜、10月19日(土) 昼・夜(計3回公演)
会場:クリエイティブスタジオ[札幌市民交流プラザ3階]

※料金、上演時刻など詳細につきましては、7月中旬にホームページ等でお知らせいたします。

主催:札幌文化芸術劇場 hitaru、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)

札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ
電話011-271-1950(劇場事業課) <https://www.sapporo-community-plaza.jp/>

札幌の舞踊家 能藤玲子は、1986年12月に旧北海道厚生年金会館大ホールで創作舞踊公演「風に聴く」を初演した際、砂澤ビッキの代表作《四つの風B》(公演後「風に聴く」と改題)を舞台美術として使用。30年以上を隔てた2017年には、神奈川近代美術館葉山での砂澤ビッキ展会場にて、同作品とともに新作の舞踊を披露しました。能藤玲子創作舞踊研究所開所60年となる今年、みたび、この彫刻との競演となる新たな舞いを創作し上演します。



能藤玲子創作舞踊団第19回公演「風に聴く」
(北海道厚生年金会館大ホール、1986年12月5日)

チケット:メンバーズ先行発売 7月27日(土) / 一般発売 8月3日(土)

北海道立文学館

砂澤ビッキの詩と本棚—流動する風景

2020年1月25日(土)～3月22日(日)
月曜休館
開館時間:9:30～17:00(入館は16:30まで)
観覧料:一般500円、高大生250円、
中学生以下、65歳以上無料

主催:北海道立文学館、公益財団法人 北海道文学館

札幌市中央区中島公園1番4号
電話011-511-7655 <http://www.h-bungaku.or.jp/>

砂澤ビッキの蔵書の中には、20代の頃に鎌倉で出会った澁澤龍彦や、澁澤が翻訳したサド侯爵をはじめとするフランス文学、国内外の詩集などがみられます。それらの影響は、彼が手掛けた彫刻や素描、そして詩にも表れているといえるでしょう。本展は、砂澤ビッキの蔵書、詩作とそれに関連した彫刻・素描、そして交流のあった文学者に焦点をあて、その多彩な創作活動の根底にある深い精神性をさぐる展覧会です。

中央図書館／図書・情報館

砂澤ビッキ関連書籍コーナー

2019年4月25日(木)～5月26日(日)
第2・第4水曜休館

開館時間:
〈中央図書館〉平日 9:15～20:00、土日祝 9:15～17:00
〈図書・情報館〉平日 9:00～21:00、土日祝 10:00～18:00

札幌市内の二つの図書館で、砂澤ビッキ関連の作品集、展覧会図録、評伝などを集め、閲覧いただけるコーナーを設けます。



〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目
電話 011-271-1955(お問い合わせ時間 9:00～17:00)

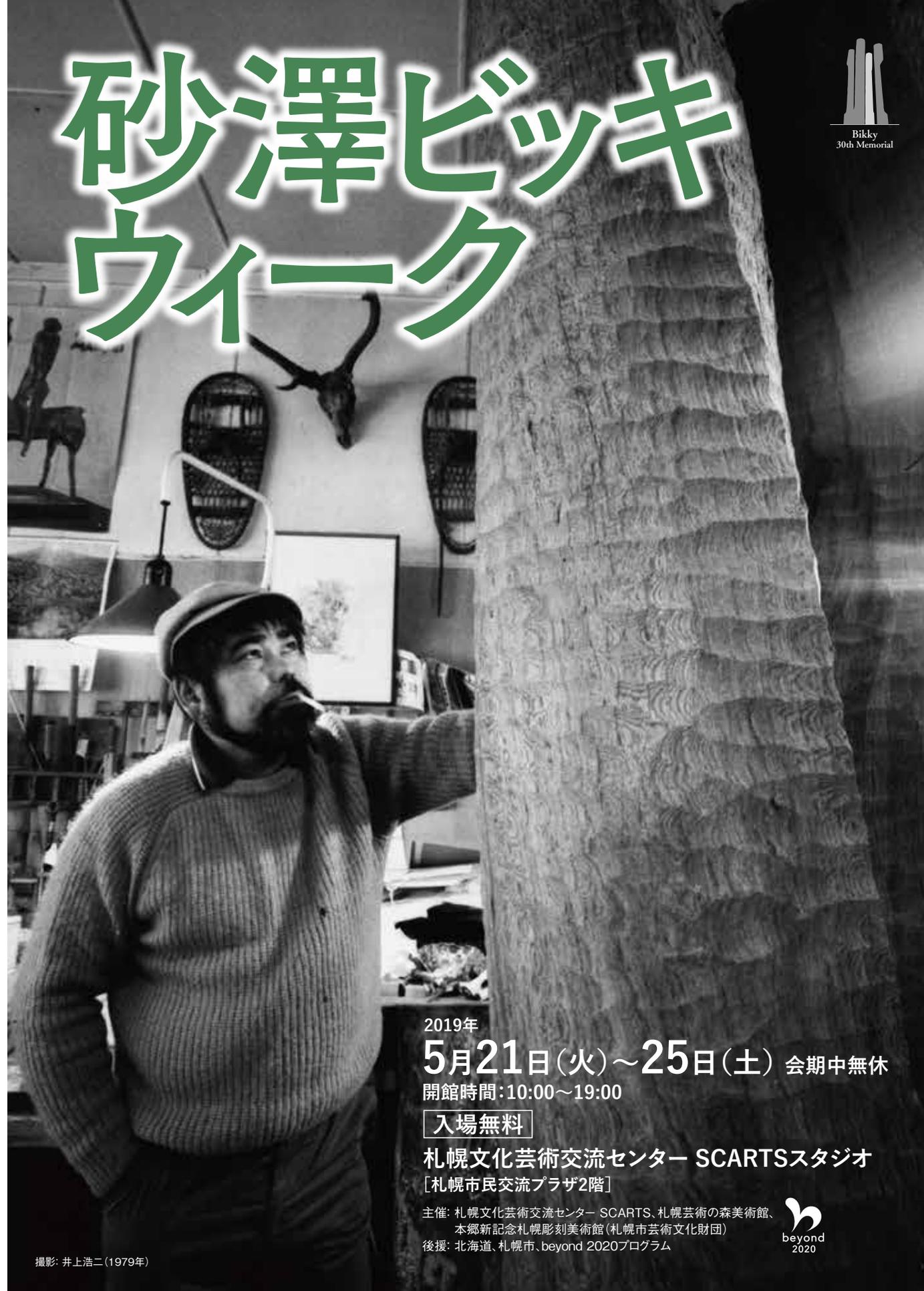
札幌市民交流プラザ

検索

SNSにて最新情報更新中!

交通のご案内
札幌市営地下鉄東西線、南北線、東豊線
「大通」駅 9番出口から西2丁目地下歩道より直結 徒歩約2分
さっぽろ地下街オーロラタウンから西2丁目地下歩道直結

砂澤ビッキ ウィーク



2019年
5月21日(火)～25日(土) 会期中無休
開館時間:10:00～19:00

入場無料

札幌文化芸術交流センター SCARTSスタジオ
[札幌市民交流プラザ2階]

主催:札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌芸術の森美術館、
本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)
後援:北海道、札幌市、beyond 2020プログラム



撮影:井上浩二(1979年)

砂澤ビッキウィーク

砂澤ビッキの没後30年を機に、親交の深かった方々による連続トークや、関連映像の上映、晩年を過ごした音威子府のアトリエの様子を撮影した写真の展示を行います。これまで札幌ではあまり語られる機会のなかった側面から、砂澤ビッキの制作姿勢や人間性に改めて迫ります。

札幌芸術の森美術館と本郷新記念札幌彫刻美術館での砂澤ビッキ展との連動企画です。



砂澤ビッキ

1931年、旭川生まれ。1952年、阿寒湖畔に移る。その後、鎌倉にて澁澤龍彦らと交友するとともに、モダンアート協会展を中心に作品を発表。1959年に旭川に戻り、1967年に札幌にアトリエを構える。1978年末から音威子府村葦島の小学校廃校をアトリエとし、豊かな木材資源をもとに、ダイナミックな造形の大作を制作。1983年10月から3ヶ月間、カナダのプリティッシュ・コロンビア州に滞在。1989年1月、57歳で逝去。

タイムスケジュール 会場：SCARTSスタジオ[札幌市民交流プラザ 2階]

	5月21日(火)	5月22日(水)	5月23日(木)	5月24日(金)	5月25日(土)
10:00	プログラム1・2 10:30~11:10	プログラム6 10:30~12:00	プログラム3・5 10:30~11:10	プログラム4 10:30~11:10	プログラム1・2 10:30~11:10
11:00	プログラム3・5 11:30~12:10		プログラム4 11:30~12:10	プログラム1・2 11:30~12:10	プログラム3・5 11:20~12:00
12:00	プログラム4 12:30~13:10	プログラム7 12:10~12:40	プログラム1・2 12:30~13:10		プログラム4 12:10~12:50
13:00		プログラム1・2 13:00~13:40	プログラム7 13:30~14:00	プログラム6 13:50~14:20	
14:00	プログラム6 13:50~15:20	プログラム3・5 14:00~14:40	プログラム4 14:20~15:00	プログラム7 14:30~15:00	連続トーク 「音威子府の10年」 13:30~16:30
15:00	プログラム7 15:30~16:00	プログラム4 15:00~15:40	プログラム1・2 15:20~16:00	プログラム3・5 15:20~16:00	
16:00	プログラム1・2 16:20~17:00	プログラム6 16:00~17:30	プログラム3・5 16:20~17:00	プログラム1・2 16:20~17:00	
17:00	プログラム3・5 17:20~18:00	プログラム7 17:40~18:10	プログラム6 17:30~19:00		プログラム3 17:00~17:30
18:00	プログラム4 18:20~19:00	プログラム1 18:30~19:00		連続トーク 「父として、作家仲間として」 18:00~20:10	プログラム4 17:40~18:20
19:00					プログラム7 18:30~19:00
20:00					

写真展示 10:00~19:00 入場無料



撮影：井上浩二(1983年)

写真家 井上浩二と妻マリエが、音威子府のアトリエに通い撮影した写真を大判プリントで展示。そこには、制作に打ち込む姿や、犬やアヒルと戯れる様子など、素顔の砂澤ビッキが記録されています。

連続トーク、関連映像上映と同じ会場内の展示ですので、混雑時にはご鑑賞しづらくなる場合があります。ご了承ください。



撮影：井上マリエ(1979年)

連続トーク 入場無料 定員90人 直接会場にお越しください。

※席に限りがあります。立ち見スペースも確保しておりますが、満員の場合は入室いただけないこともあります。ご了承ください。

「父として、作家仲間として」 5月24日(金) 18:00~20:10



撮影：橋本陽

橋本正司

彫刻家。東京にてモダンアート協会展や集団現代彫刻展で砂澤ビッキと活動をともにするなど、1960年前後に交流のあった芸術家の一人。当時の東京の彫刻状況やビッキの独自性などについて語る。



矢崎勝美

映像作家・版画家。砂澤ビッキが札幌に移り住んだ1967年から親交を深め、テレビ番組「11PM」出演や音威子府移住を後押ししたほか、ビッキの最期も看取った。親友の彼だけが知るエピソードを語る。



砂澤 陣

工芸家。砂澤ビッキの長男。ビッキ文様を継承し和柄と組み合わせた作品作りに取り組んでいる。ビッキが父として彼に語り伝えたことを中心に、息子の目を通して見た知られざる側面などについて語る。

「音威子府の10年」 5月25日(土) 13:30~16:30



河上 寛

エコミュージアムおさしまセンター名誉館長。1978年末に音威子府村郊外の葦島の小学校廃校に来た砂澤ビッキを、木材提供などさまざまな面から支えた。近くで見守ってきた音威子府での活動を振り返る。



井上浩二

写真家。音威子府に移住して間もないころからアトリエに通い、砂澤ビッキの飾らぬ姿などを撮影。「砂澤ビッキウィーク」会場内に展示した写真のほか、数多くの写真をスクリーンに映しながら当時を振り返る。



能藤玲子

舞踏家。1986年の創作舞踊公演の舞台美術を、親交のあった砂澤ビッキに依頼し、「四つの風B」を使い上演。その思い出とともに、2017年の神奈川に続き、札幌で今年10月にまたび舞うことについて語る。



藤嶋俊會

元神奈川県民ホールギャラリー学芸員。1989年1月に開かれた砂澤ビッキの展覧会を担当。ビッキが病を押して会場まで出向いた時の様子など、最後となった展覧会について振り返る。

関連映像上映 入場無料 定員70人 直接会場にお越しください。

プログラム1

トアカンノの息子たち

(24分 企画・製作：HBC北海道放送 1965年放送)

砂澤一家の日々を追ったドキュメンタリー番組。砂澤ビッキの弟の一雄の目を通して、阿寒湖畔の「ビッキの店」で木彫の土産を販売することと自らの表現の間で揺れ動く姿を、重厚に描き出す。



プログラム5

風に聴く—砂澤ビッキ—

(10分 企画：北海道立近代美術館 制作：北海道映像記録株式会社 1994年度)

北海道立近代美術館のビデオ・ライブラリーのプログラム。記念館に改修する前の音威子府のアトリエの様子や、まだ4本残っている《四つの風》など多くの作品を、作家の言葉を交えながら紹介。



プログラム2

HBCアーカイブ ニュース映像

(10分 HBC北海道放送)

旭川にオープンしたアイヌ民芸センターで指輪のデザイン画を描く姿(1961年)や、音威子府のアトリエで作品解説する姿(1979年)など、HBCの映像アーカイブに残るニュース映像を編集して上映。



プログラム3

北の群像—北辺の晩秋

“風の王と王妃”を彫る

(24分 企画・製作：STV札幌テレビ 1988年11月13日放送)

最後の展覧会となった神奈川県民ホールギャラリーでの展示作品の制作に、腰の痛みをこらえながら打ち込む姿を記録した番組。亡くなる前年の秋に、音威子府のアトリエで収録。



プログラム4

オトイネツタワー物語

(40分 2013年制作)

1980年9月に音威子府駅前に建立された高さ15メートルの「オトイネツタワー」の、原木の伐り出しから、多くの村民との作品搬送、設置作業、式典までを追ったドキュメント映像。当時撮影された8ミリフィルム映像に、関係者のコメントを交えて編集。



プログラム6

能藤玲子創作舞踊団

第19回公演「風に聴く」(90分)

1986年12月5日に旧北海道厚生年金会館にて上演された舞台の記録映像。砂澤ビッキの彫刻《四つの風B》が舞台美術として使われ、四季をテーマとした4部作の幕ごとに、作品の配置を変える演出が行われた。



プログラム7

能藤玲子ダンスパフォーマンス

「風に聴く」(30分)

神奈川県立近代美術館葉山で開催された「砂澤ビッキ展」の関連事業として、2017年5月13日に、展示室内で行われたダンスパフォーマンスの記録映像。31年ぶりに再び「四つの風B」から改題された《風に聴く》とともに舞い、集まった多くの観衆を魅了した。



能藤玲子「風に聴く—みたびみえる—」を、2019年10月18日・19日に、クリエイティブスタジオ[札幌市民交流プラザ3階]にて上演します。砂澤ビッキの代表作《風に聴く》との三度目の競演としてリクリエーションした新作をご鑑賞前に、ぜひ過去2回の公演記録も合わせてご覧ください。